

科目名	裁判法入門（司法制度基礎）	
担当者	笹邊 将甫 / SASABE, Masatoshi	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	<p>紛争が生じた場合、それを解決に導くシステムが裁判制度になります。そのシステムの基礎を理解しておくことは、法学を学ぶ上でも重要なことであると言えます。また、報道等において、「裁判」というキーワードをよく耳にしますが、実際にはどのような手続や仕組みになっているかについては、具体的には知られていないことが多いようです。</p> <p>本講義では、わが国の司法制度や裁判手続を初学者にもわかり易く解説していきますので、その全体像をつかむことができます。</p>
	到達目標	わが国の司法制度や裁判手続に関して、その仕組みや手続の流れの基本的事項を理解する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス(授業内容・授業方針・成績評価基準)及び日本の法体系と裁判体系 (2) 裁判と裁判所制度①——民事法と民事手続・刑事法と刑事手続(1-44頁) (3) 裁判と裁判所制度②——司法権と違憲審査制・裁判所制度(44-95頁) (4) 憲法裁判——違憲審査制と憲法裁判(239-250頁) (5) 民事裁判①——民事訴訟の基本構造・訴えの提起・審理(150-166頁) (6) 民事裁判②——証拠調べ・判決・上訴(167-181頁) (7) 刑事裁判①——刑事手続の流れ・捜査手続と逮捕(205-227頁) (8) 刑事裁判②——公訴提起と検察制度・公判手続の基本構造(227-238頁) (9) 行政裁判——行政訴訟の種類と特色(186-205頁) (10) 人事訴訟・家事審判——家事事件と家庭裁判所(182-185頁) (11) 労働紛争処理——労働紛争処理手続の概要(参考書:82-94頁) (12) 知的財産紛争処理——知的財産紛争処理手続の概要(参考書:67-81頁) (13) 裁判外紛争処理(ADR)——法律相談・斡旋・調停・仲裁(参考書:123-147頁) (14) 法律家の養成と法律家の役割——法曹三者の役割と養成・準法律家(97-148頁) (15) 総まとめ(予備日) 	
自学自習	事前学習	上記の授業計画には、その回の講義で扱う部分の教科書の該当頁を示しています。受講者には、該当頁を予め読んでくることを希望します。
	事後学習	Moodle上で実施される小テストを毎回受験して、講義内容を復習しておいて下さい。任意提出のレポートを課す予定です。
使用教材・参考文献	<p>【教】市川=酒巻=山本『現代の裁判〔第5版〕』(有斐閣、2008年) ISBN:978-4-641-12363-2</p> <p>【参】小島武司編『ブリッジブック 裁判法〔第2版〕』(信山社、2010年) ISBN:978-4-7972-2333-0</p> <p>※その他の文献は講義中に適宜紹介していく予定です。</p> <p>なお、講義には、Moodle上で配布されるレジュメを各自で印刷して、毎回持参すること。</p>	
成績評価方法と基準	<p><方法> 小テストの結果(30%)、筆記試験の結果(70%)を総合評価します。</p> <p><基準> 総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。</p> <p>※詳細については、初回のガイダンス時に説明します。</p>	
備考	<p>◆六法を毎回持参して下さい。</p> <p>◆小テストやレジュメの配布には、Moodleを利用します。</p> <p>初回のガイダンスには必ず出席して下さい。重要な点について説明を行います。</p>	